

# 命を守る避難の課題 講演会

主催 公益社団法人 日本地震工学会

企画：津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会

## 趣旨

東日本大震災では適切な避難が出来ず大変多くの方が亡くなった。首都直下地震や南海トラフ巨大地震では甚大な被害が予測され複合型災害にも対処した避難が必要になる。日本地震工学会「津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会」は、これらの突然襲ってくる大災害から命を守る避難の課題について調査研究を行ってきた。国際的な事例の収集、避難対策に資するシミュレーション技術の開発も行っており、この講演会ではそれらの成果を防災に関わる実務者・市民向けに紹介する。

日時：2014年2月7日（金）10:30～12:00

場所：パシフィコ横浜・アネックスホール2階203会場

（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

プログラム：（10:30～12:00）

開会挨拶 後藤洋三（津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会委員長・東京大学地震研究所 外来研究員）

### 1. 大津波からの避難の課題と対策 — 1万8千余名の死者行方不明者が残した教訓 —

後藤洋三（東京大学地震研究所 外来研究員）

東日本大震災で大津波に襲われた岩手県・宮城県沿岸部の被災者1,300名へのヒヤリング・アンケート調査と死者行方不明者800名の行動調査から分かったことを、危険の衆知、情報の伝達、避難の方法、そして社会防災力の観点から整理し、命を守る避難の課題について「たてまえ」や「かけ声」の前にあるべき対策を述べる。

### 2. 大都市における避難の課題と対策

久田嘉章（工学院大学・建築学部・教授）

東日本大震災では首都東京は膨大な数の帰宅困難者等で大混乱になった。今後、大都市の減災対策には震災・火災だけでなく、多数の被災者や水害（津波・洪水・高潮）のなど複合都市型災害への対応も同時に考える必要がある。本講演では大都市における避難対策の現状と課題、及び、具体的な対策事例などを紹介する。

### 3. 避難シミュレーションの最先端

末松孝司（東京工業大学・大学院総合理工学研究科・連携教授）

今後予想される大震災の被害軽減のための対策はハード整備だけでなく、ソフト（計画、活動、情報）の整備が大変重要であり、効果的であることが、東日本大震災、各地のゲリラ豪雨や土砂災害で明らかとなった。そのソフト対策をとるうえで効率的な手段としての避難シミュレーション技術の最前線の動向、特に各種シミュレーションモデルによる結果の妥当性や信頼性を担保するための検証活動について紹介する。

定 員：150名（先着順）

申込方法

- (1) 参加の方は、「命を守る避難の課題」として、氏名、勤務先（参加者が2名以上の場合それぞれのお名前）連絡先住所、電話番号、メールを明記して、メールまたはFAXのいずれかでお申込みください。
- (2) 参加証はメールまたはFAXにてお送りいたします。
- (3) 当日、参加証を持参の上、資料と引き換えてください。

申込み・問合せ先：日本地震工学会事務局  
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館  
電話 (03) 5730-2831、FAX (03) 5730-2830  
メールアドレス：office@general.jaee.gr.jp